

AKITA 英語コミュニケーション能力強化事業  
令和2年度英語教育推進班による学校訪問

- 【日時】 令和2年7月3日(金) 9:45~11:35  
【会場】 秋田中央高等学校 大会議室  
【参加者】 草階 健樹指導主事、関屋 亜生以(司会・記録)、  
山田 美穂子、宇佐美 聖子、金岡 和恵、舟木 志保、  
菅原 優子(授業者)、シーラ・ヒリンジャー(授業者)

1. 指導主事紹介及び開会の言葉

2. 参加者自己紹介

3. 授業者(菅原 優子先生、シーラ・ヒリンジャー先生)から  
(菅原先生)

本日は参観していただきありがとうございました。インタビュー形式にしようと思ったのは、教科書のタイトルが「羽生さんへインタビュー」となっていて、その部分を授業に絡めようと思ったから。最初はスポーツ選手やミュージシャンへのインタビューとも考えたが知らない生徒もいると思い、身近な担任や教科担任の先生方を対象にし、最初は日本語から始めた。2年生全体が物静かで、生徒同士、そして先生とも打ち解けてほしいという気持ちもあった。授業を振り返って、活動のルールを浸透させることができなかったことが一番の反省点だと思う。似たような形式で前日にやったのだが、やるべきことをうまく伝えられていなかったということを感じた。インタビューして内容が fake か real かを考えさせ、どちらかに生徒を分けた後、インタビュアーの人たちは本物だと思う方を決めさせるという流れだったが、その間先生方役は何をやっていけばいいのかということが迷うところだった。answer sheet を作らせて fake を選んできた時、担当する生徒が正しい答えを示せるように持って行きたかったが、プリントの構成も不親切なものになってしまったところが多かった。途中から、シーラ先生がよりわかりやすく説明してくれたり、生徒同士でも確認し合ってくれたりして生徒に助けられた。ペアワークもコロナの影響もあり、今までほとんどやらせていなかった。急に今日やったが生徒たちがうまく対応してくれた。

(シーラ・ヒリンジャー先生)

生徒たちはジャッジするのにやや時間がかかったが、ナーバスになっていたからではないかと思う。生徒たちは授業を楽しんでいた。プレゼンテーションの間、お互いがよく理解して、よく聞いていたし頑張っていた。英語を使うことを楽しんでいて、それはとても重要なことだと思う。

4. 質疑応答

(山田先生)

2年生は入学したときから、あまり意思表示をしない生徒が多いと感じている。今もその傾向があり、F組は特に静かなクラスなので活動をあれだけさせたのがすごい。インタビューをここまでシステマティックに考えられた先生がすごいと思った。全ての生徒がなにかしら活動一話したり聞いたり書いたりまとめたりをしなければいけない形式に活動を持っていかれて苦心されたと思う。そうであるが故に

複雑になってしまったのでは。そこが理解しやすいものになれば楽しみも倍増してもっとよかったのではと感じた。発表する声が高く、聞き取れないところもあった。毎回注意すると生徒のやる気をそいでしまうことにもなりかねないので、最初の段階で、これくらいの声の大きさになるようにと誰かをモデルにしてやらせてみてもよいと思う。改善するとすれば声の大きさなのではないだろうか。とてもおもしろい試みだった。

#### (舟木先生)

生徒が楽しんでやっていた。ゲーム形式にしたり、発表し終わった後に、先生から景品があったり、生徒が楽しめるように考え、工夫した活動だった。発表するときに原稿を読みあげている生徒が何人かいた。キーワードを見て言わせるなどのやり方もあったのではないだろうか。最初の方でやり方が分からない生徒に机間巡視をして丁寧に説明し、指示を的確にフォローしていて、最終的に発表もうまくいったと思う。

#### (宇佐美先生)

とても面白いインタビュー形式だった。ルールを理解するまで、生徒だけでなく自分自身も時間がかかった。もう少しシンプルにしてもよかったのでは。自分も色々アイデアが浮かんできて、インタビューを報告する形式にしたり、どの先生のものなのか、写真を並べてあてたりしたらどうだろうと、自分自身が先生の授業から色々アイデアをもらった。非常に面白かったが、やや複雑だったのが残念に感じられたが、最後は盛り上がってよかった。パワーポイントを使ったり写真を使ったりすればもっと面白かったのでは。気になったのは、先生とシーラ先生と同時に生徒に指示していた場面があり、生徒が混乱したかもしれない。分けてもよかったのでは。

#### (関屋先生)

テスト明け10日位で毎日遅くまで残り頑張ってくれていた。菅原先生の授業ではあったが、英語科全体の研修の機会として示唆に富んだ授業であった。複雑になりすぎて、生徒はプレゼンで何をやればいいのかというゴールが分からずに活動していたため、授業中に調整しながらということになったが、課題も含めて自分も挑戦したいと思った。ICTの活用もうまくやれるのではないかと感じた。訪問時の授業参観の観点ということで4つ英語推進班からきていて、その観点から考えたい。

##### 1. 「生徒が主体的にコミュニケーションを図る統合的な言語活動の設定」

生徒は授業を積極的に受けていて意欲的にコミュニケーションをとろうとする態度が感じられた。主体的なコミュニケーションといったときに、事前に先生方にインタビューをしており、英語の授業だけではなく、事前からコミュニケーションの機会を持っている。自分のことを表現したり、他人に興味をもつことが少なかったりする生徒が多いとすれば、インタビューの機会は成長のチャンスになったのではないだろうか。インタビューした内容を授業において英語で発表させる場を作ってあげたことは、生徒にとってよかったと思う。英語の授業の中だけで完結するのではなく、授業外のことからも考えていて、とてもいいと感じた。統合的な言語活動ということで、今日は、話すことと書くことを合わせたと思うが、書いたものを読み上げるだけだと、読むというよりは書く活動になってしまうが、最初にインタビューをやったということで、話すやりとりが含まれたのではないだろうか。そうした意味では、形式にあてはめ過ぎた感もあり、自由なやりとりがもう少しあってもよかったのではないかと感じた。自分が作った原稿を読むという活動において声の出し方に関しては、自信のある部分は大きな声で言えるが、大事な部分が聞こえないと real か fake か分からず、もごもごしてしまったり、単語が分からず言いよどんだりしてしまっていた。生徒たちに普段から一番伝えたい部分を強くはっきり伝える、話し方のメリハリをつけるように繰り返し言ってあげる、といった具合に聞き手のことを考えて話し、相手に伝え

るためにどうしたらいいかという意識付けが大事なのではないかと思います。

## 2. 「ALT を活用した効果的な TT」

準備のための十分な時間がとれない中、役割分担がはっきりしていてよかった。生徒にどんな力をつけさせたいか、一番軸になる部分を共有してやっていけばいいのではないかと思います。今日はシーラ先生の朗らかな人柄がよく出ていて、生徒を引っ張ってくれていた。

## 3. 「新学習指導要領を意識した授業」

ただ話すのではなく「やりとり」が入る。相手が言ったことに対して聞き返す表現や、確認の表現を普通の授業から教えて使えるようにしていければと思う。そうすれば、最初のインタビューの場面でも、もっとうまくいったのではないだろうか。やりとりということに関しては、発表後に fake か real か言わせたが、そのときに「なぜそう思ったか」という理由づけを言わせる班がいくつかあっても良かったのでは。日本語でもいいから言わせてもよかったと思う。

## 4. 「組織的な授業改善」

昨年、宇佐美先生が2年生で研究授業を行い、「世界遺産について」をテーマにポスターセッションを行ったが、非常にいい活動だったと思う。今年さらにレベルアップしたものを考えていたと思うが、このご時世で生徒に声をかけるのも難しかった中、示唆に富む授業だった。これから英語科で更にいいものを求めて情報を共有して頑張っていきたい。

### (金岡先生)

2年生は全体的におとなしいということだが、今日の授業はとても活発で、生徒たちが積極的に英語を使い、活発に授業に臨んでいる姿が印象的だった。生徒と先生の信頼関係がしっかりしているからこそだと感じた。

### (草階指導主事)

活動は去年からやっていたものなのだろうか。

### (菅原先生)

SSH があり、プレゼンの指導は去年から割と時間をかけていた。やりとりの部分はあまりできていなかった。

### (関屋先生)

校内授業研究は最初の予定は10月だったが、前倒しして頑張ってもらった。SSH 事業で生徒それぞれのグループで課題研究を進めており、それを英語で発表し質問に答えるということは1年生の内にやっている。

### (関屋先生)

今日の授業ではまとめの時間がなかった。既習事項を含めた形でインタビューしてはという思いもあったが、扱っている文法事項があまりコミュニカティブなものではなかったということもあり、今回はあえて含めなかった。まとめの時間に効果的な表現を再確認する予定になっていたが、先生の中ではどんなものが出てくると想定していたのだろうか。

### (菅原先生)

効果的な表現というか、特徴ある質問、What is your hobby? とかではなく、例えば生物の先生に「好きな細胞はなんですか？」と聞いたところがあったので、文法的な表現というよりは内容的なおもしろさを求めていた。

### (関屋先生)

生徒たちは1回のやりとりはいいが、2回3回はできない。どんな質問をしたらいいか、なかなか自分で考えられないので、いい例が出てくればよかったのではないかと感じた。“質問の仕方”“何を聞くべきか”というのは、経験値を上げさせてあげると次へのステップになるのでは。

## 5. 指導助言

(秋田県教育庁高校教育課英語教育推進班 草階健樹 指導主事)

令和4年度から新しい学習指導要領が始まり、統合的な言語活動ということを出している。ただ読む、書くだけではなく、「読んだものについて話す」、「聞いたものに対して話す」といった具合に、4つの技能全てではなくても、技能を統合的に絡めて言語活動をやっていけば生徒たちは伸びていく。今日の授業に関しては、色々考える場面があってももしろい活動だし、good try だと思った。まずはどんどんやってみて、お互いやりながら improve していければいいと思う。指導計画の順において見ていくと、本字の目標の確認は板書でしっかり書かれていたし、口頭でも言っていたし、磁石で進行を示していて生徒はやるのが分かっていた。展開の部分で、最初はペアで活動していたが、最初、どんな活動をしているのか分からず、何人か生徒に聞いてみたところ、よく説明してくれた。先生が作ったシートがあることによって生徒は何をやっているかわかるし、授業を進めやすかったのではないだろうか。反面、しばらくしてしまって即興的な部分が入り込む余地がなくなってしまっていたので、プリントが丁寧になりすぎてはよくないのではと感じた。文章を書かせる時、それを見るなどというのは無理だし、発表するときも読むだけの活動になってしまうので、メモのみにして文章として書かせないほうが良いかもしれない。話す活動であれば、メモやキーワードのみで話させてみては。例えばペアで練習させて、発表時に2人立たせて、それぞれに“I'm ~.” “I'm also~” と話させて「どちらが本物だろう」と手を上げさせて票を獲得した方が勝ち、というやり方にすると伝わるだろうし、聞いている生徒ももっと真剣に聞いたのではないだろうか。今日のパターンでいくと、どちらがインタビュアーでどちらが先生か分かりづらかった。聞く方にメモをとらせるようにさせたり、評価させたりするなど、何か活動を与えた方がいいのではないかと感じた。ALT からもっとコメントをもらってもよかったのでは。ALT の役割は positive feedback をし、encourage して motivate させることだと思う。ALTに通じたというのはやる気を促すことになるのでは。また、発表させたときに ALT にあえて分からないふりをさせ、ALT に質問してもらおうのもよいと思う。

日常的に学年内外問わず、中央高校としてどのようにもっていくかをみんなで考えて実践していってもらいたい。

(関屋先生)

今年度の英語科がようやく動き出した感じがしている。こういうご時世だが、意見を出し合いながら中央高校全体で頑張っていきたい。今日はありがとうございました。